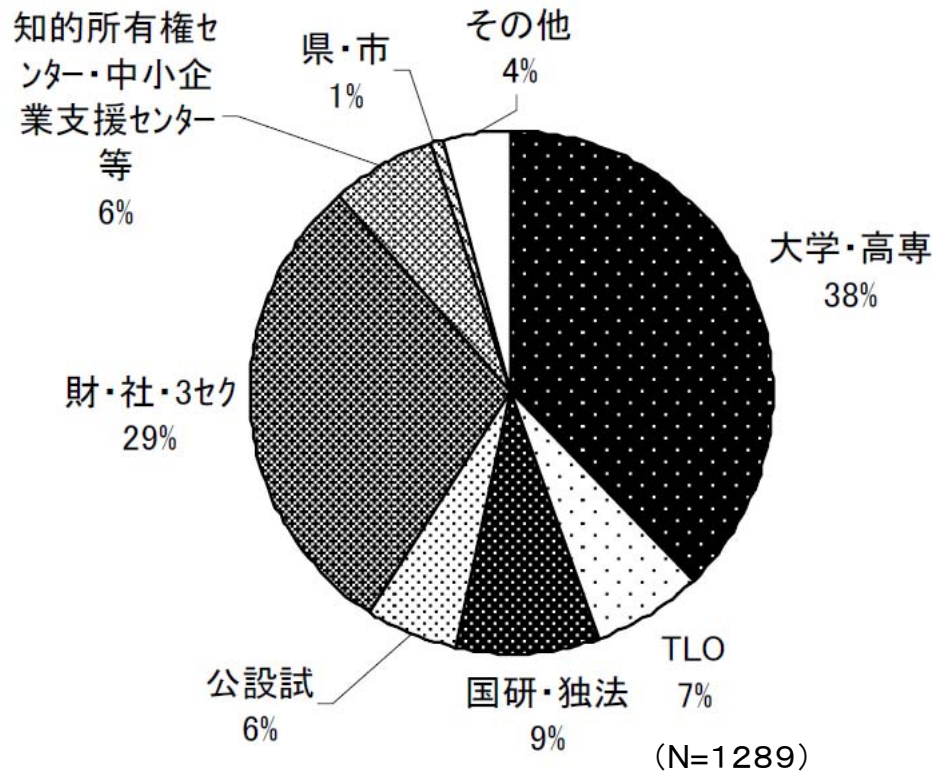
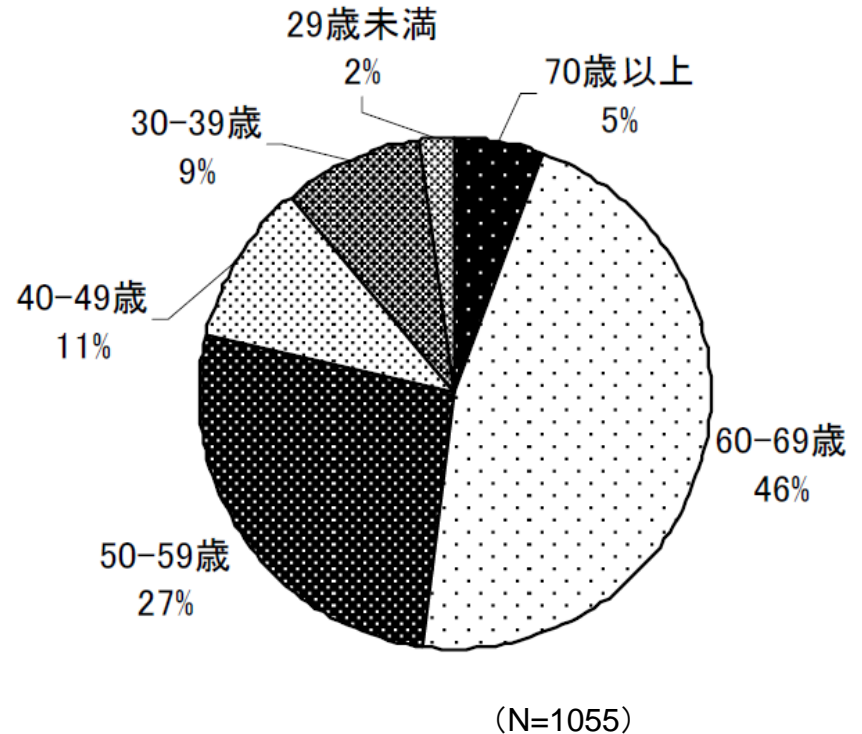


コーディネーターの所属と年齢について

所属機関別のコーディネーター分布



コーディネーターの年齢分布

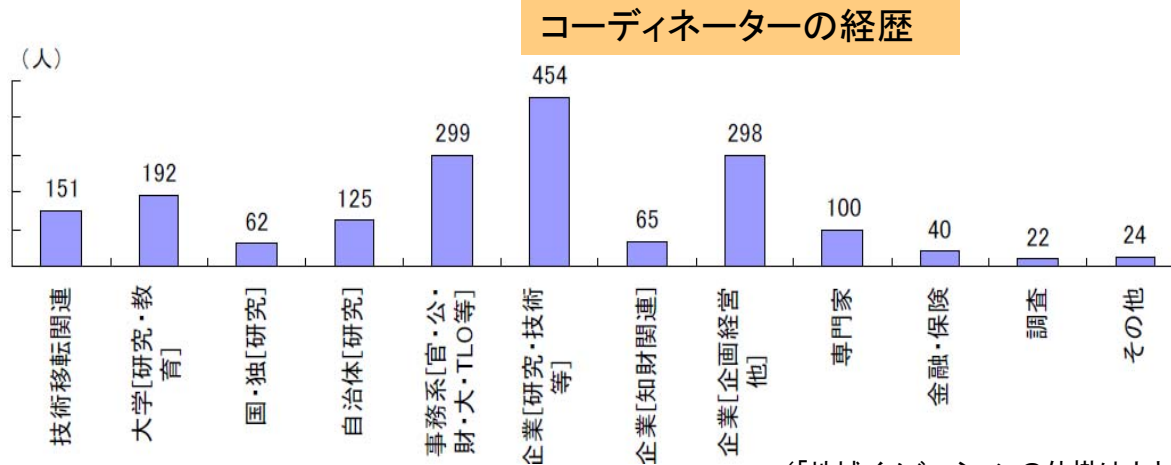
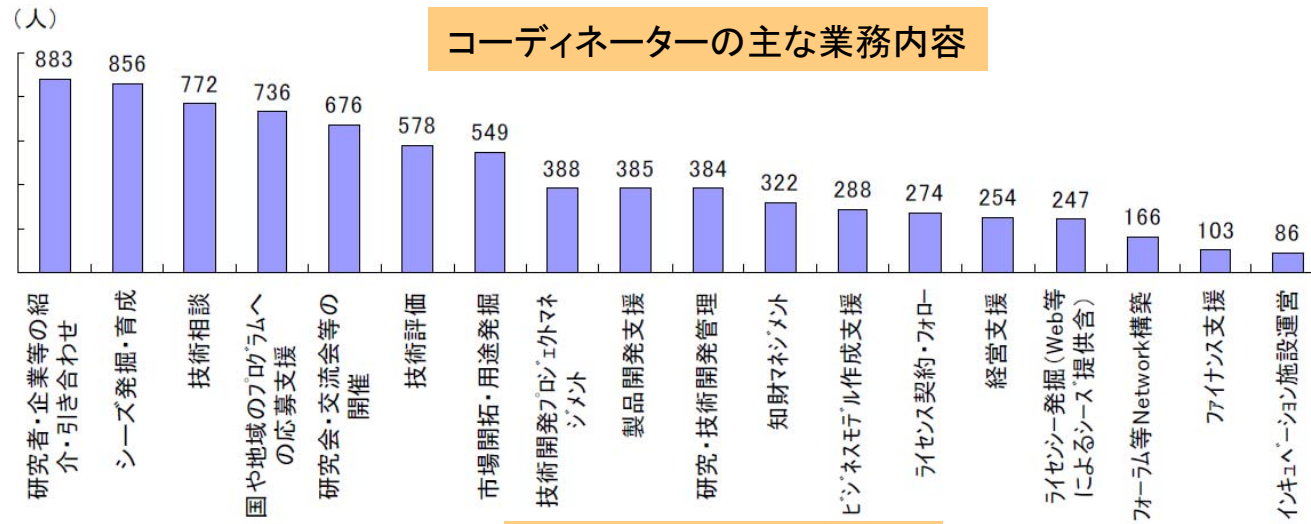


(「地域イノベーションの仕掛け人としてのコーディネータの役割」調査報告書
(平成19年6月、(財)全日本地域研究交流協会)より)

コーディネーターが配置されている機関としては、シーズを有する研究機関である「**大学・高等専門学校**」が約4割と最も多く、続いて「**財団法人・社団法人・第3セクター**」の約3割となっている。

コーディネーターの年齢をみると、**60歳以上**が約5割を占め、**50歳代**が約3割となっており、年齢層が高くなっている。

コーディネーターの業務内容と経歴について



(N=1324、複数回答)

(N=1057、複数回答)

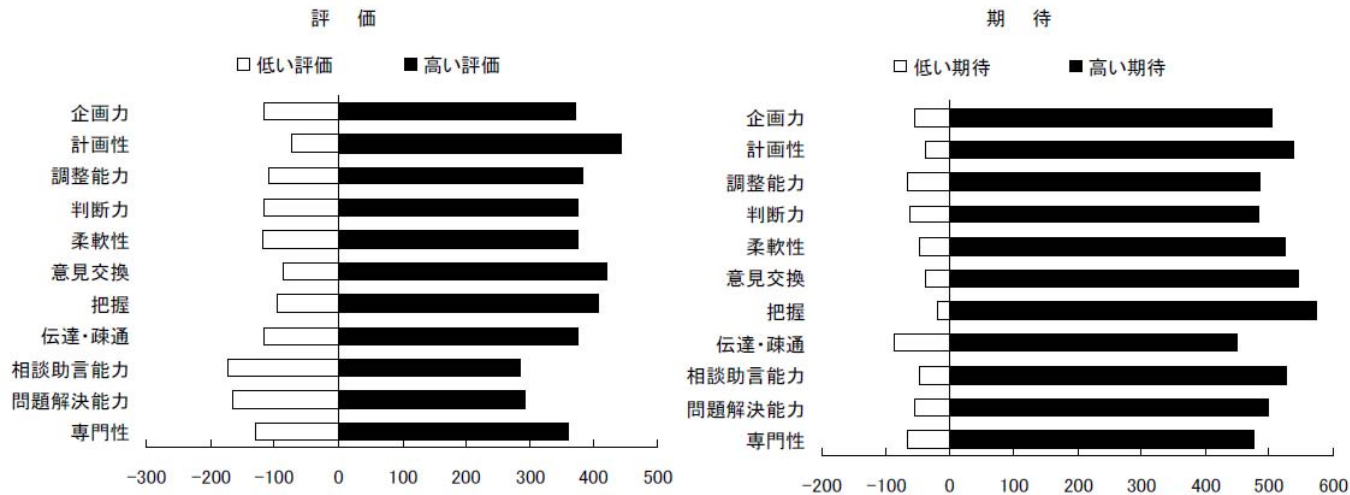
(「地域イノベーションの仕掛け人としてのコーディネータの役割」調査報告書
(平成19年6月、(財)全日本地域研究交流協会)より)

コーディネーターの主な業務内容としては、「**研究者・企業等の紹介・引き合わせ**」が最も多く、「シーズ発掘・育成」、「技術相談」がそれに続く。

コーディネーターの経歴は、「**企業(研究・技術等)**」が最も多く、「事務系(官・公・財・大・TLO等)」、「企業(企画経営他)」がそれに続く。

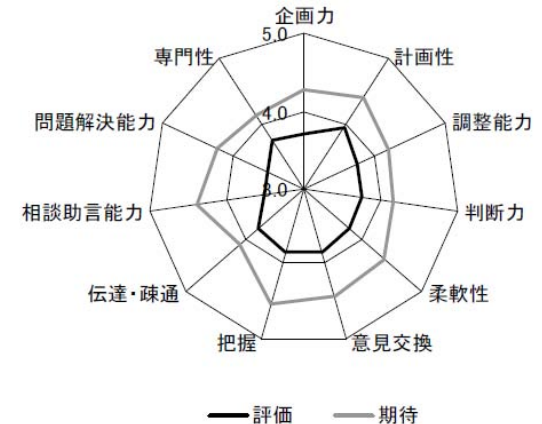
企業によるコーディネーターの評価と期待について

企業によるコーディネーターの能力の評価と期待



注)・企業数は、評価、期待とも131。
 ・「低い評価」、「低い期待」は、算出したデータに-1を乗じたものである。

企業によるコーディネーターの能力の評価と期待の平均値



注) 企業数は、「評価」、「期待」とも131。

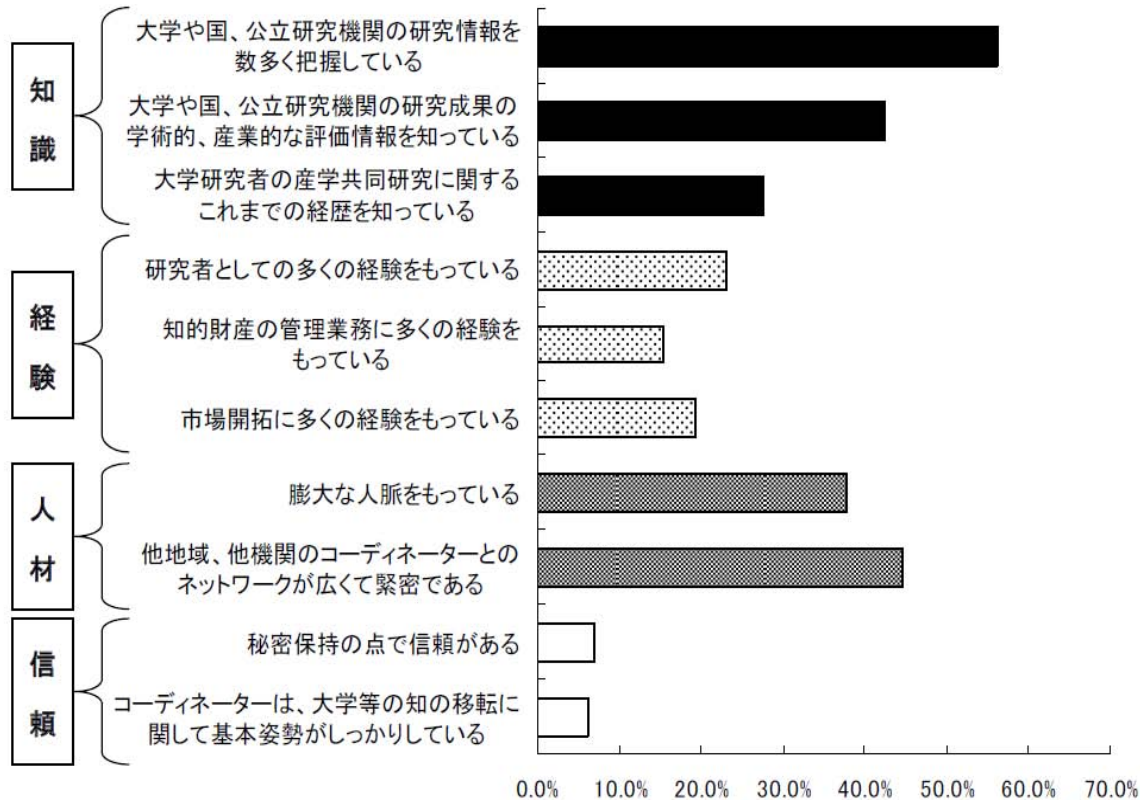
(「地域イノベーションの仕掛け人としてのコーディネータの役割」調査報告書(平成19年6月、(財)全日本地域研究交流協会)より)

産学官連携事業でコーディネートを活用した企業に対して実施したアンケート調査によると((財)全日本地域研究交流協会)、コーディネーターについては、「**計画性**」、「**意見交換**」、「**把握**」について評価が高い。一方、「**相談助言能力**」、「**問題解決能力**」が他の能力に比べて評価が低い。

評価に比べると、コーディネーターへの期待は全般的に高い。企業からは比較的評価が低い「**相談助言能力**」、「**問題解決能力**」についても、コーディネーターに対する**期待は高くなっている**。

企業からみたコーディネーターの要件について

企業からみたコーディネーターに必要と思われる要件



注) 企業数は、130。

(「地域イノベーションの仕掛け人としてのコーディネーターの役割」調査報告書(平成19年6月、(財)全日本地域研究交流協会)より)

産学官連携事業でコーディネートを活用した企業に対して実施したアンケート調査によると((財)全日本地域研究交流協会)、産学官連携の機能を高めるために、コーディネーターが必要とする要件として最も重視しているのは「知識」(大学や国、公立研究機関の研究情報を数多く把握している)や「人的ネットワーク」(他地域、他機関のコーディネーターとのネットワークが広くて緊密である)となっている。